V 標準化会議の事業報告

1. 概要

標準化会議は、会員ニーズに基づく積極的な規格原案作成活動を進めた。国内標準化活動では、JIS 2規格の新規制定及び改正発行ができた。JSMA規格も例年並みに改正発行を進め5規格が発行できた。一方国際標準化活動では、11月に第11回ISO/TC227ばね国際会議をクアラルンプールで開催した。Pメンバ12か国中、8か国約40名が参加した。日本から提案した「皿ばね第1部：計算式」は、国際会議後にCD投票に入り可決され次段階のDIS段階への移行が見えてきた。一方「皿ばね第2部：技術仕様」はCD段階にあり、今後欧州を初めとする各国とさらに論議を重ねていく状況にある。

2. 会議の開催

会議	日程・場所	主な議案
第1回 標準化会議	平成27年6月18日 東京・機械振興会館	1.国内各規格開発(JIS、JASO及びJSMA)活動内容審議 2.ISO/TC227ばね活動報告及び審議
第2回 標準化会議	平成27年10月6日 東京・機械振興会館	1.国内各規格開発(JIS、JASO及びJSMA)活動内容審議 2.ISO/TC227ばね活動報告及び審議
第3回 標準化会議	平成28年2月10日 東京・機械振興会館	1.国内各規格開発(JIS、JASO及びJSMA)活動内容審議 2.ISO/TC227ばね活動報告及び審議 3.今年度活動の総括と来年度活動計画審議

3. 活動の詳細

3.1 国内規格関係

3.1.1 JIS規格関係

12月にB0156「ばね記号」の新規制定及びB0103「ばね用語」の改正発行があった。「ばね記号」はISO規格16249 Springs-Symbolsが平成25年春発行されたことに伴い整合化を図った。全部で85の記号をJIS化した。なおISO規格では τ をせん断未修正応力で規定している。国内では従来から τ をせん断修正応力で記号化しており、市場の混乱を避けるためせん断未修正応力は τ_0 、せん断修正応力は τ_c (タウカッパ)とした。「ばね用語」には、記号を定義した例えばばね定数などの30記号が含まれているため参考欄に記号欄を設けてその該当記号(ばね定数の場合はR)を表示した。また全体の見直しも行い、全部で431の用語を規格化した。

3.1.2 JASO規格関係

自動車技術会規格委員会要素部会の活動に参加し、小改正作業及び分科会活動等を進めた。今年度はJASO F302「波形ばね座金」改正原案作成作業を10月まで行い、12月に審議承認された。規格発行は来年度になる。

3.1.3 JSMA規格関係

今年度は以下に示す5規格の改正原案作成作業を進めた。SA005「熱間成形圧縮コイルばね」、SB005「線細工ばね(ワイヤフォーミング)の普通寸法公差」及びSB009「コイルドウェーブスプリング」を平成28年3月に、SC001「溝付き及び二重巻きスプリングピン」を12月に、SD009「ねじりコイルばねのねじりモーメント測定方法」を9月にそれぞれ改正発行した。

3.2 ISO規格関係

3.2.1 第11回クアラルンプール国際会議

日本からは相羽国際幹事以下9名が出席した。11月12日、13日の2日間開催され、1日目はワーキンググループ会議、

2日目は本会議が行われた。

日本提案の「皿ばね」CD案は、2部制となっている。第1部は計算式、第2部は技術仕様である。昨年度のパリ国際会議以降CD投票を行ったところ何れの原案も否決され、今年度は修正CD案の作成を行い国際会議では、第1部はCD投票に入ることを決めた。第2部はワーキンググループ会議では原案に材料の国家規格などを取り組むべきでないことが可決された。そしてドイツからは第2部の修正原案（高品質及び標準品の2つのグレードに分ける）を提出することが決議され、本会議でもグレードを2つに分けることが決議された。

平成28年度の第12回国際会議は、オーストリア（開催都市はウィーン）で実施することを決議した。その他の議題としてはTC2とのワーキンググループを作る計画は中止した。さらにロシアから提案のあったナノサイズコイルばねの規格開発提案は不採択とする決議を行った。

国際会議以降「皿ばね」の第1部のCD投票が平成28年2月まで行われ、100%賛成票が得られた。DIS段階へ移行が確実にされる見通しが得られた。第2部は今後Pメンバ各国との調整作業を進めて次回の国際会議までに投票に持ち込めるCD案の提出を図る。

この活動には、政府制度の国際標準開発事業、国際幹事国際会議派遣事業のツールを活用し、経済産業省、株式会社三菱総合研究所の支援を頂きながら実施した。